

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第211集

長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂上聖端遺跡発掘調査報告書

2012.12

エフビー介護サービス株式会社
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書はエフビー介護サービス株式会社 代表取締役 柳澤 秀樹による平成23年度本社及び福祉用具メンテナンス物流センター建設事業に伴う、長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市長土呂159-2 エフビー介護サービス株式会社 代表取締役 柳澤 秀樹
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ (N N K Ⅱ)
佐久市長土呂159-1、159-2、159-3番地
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。
H- 竪穴住居址 F- 掘立柱建物址 M- 溝状遺構 P- ビット
- 2 スクリーントーンの表示は以下の通りである。

遺構-地山断面



焼土



粘土



遺物-須恵器断面



- 3 挿図の縮尺は以下の通りである。
遺構- 竪穴住居址・掘立柱建物址・溝状遺構・ビット 1/80
遺物- 土器・石器・鉄製品 1/4
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 6 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 立地と経過及び周辺遺跡	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 発見された遺構と遺物	3
第Ⅱ章 遺跡の環境	3
第1節 自然環境	3
第2節 基本層序	3
第Ⅲ章 遺構と遺物	5
第1節 竪穴住居址 (H)	5
第2節 掘立柱建物址 (F)	10
第3節 溝状遺構 (M)	14
第4節 ビット (P)	16

写真図版

抄録

第I章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過及び周辺遺跡

長土呂遺跡群は、浅間山の麓から放射状に広がる浸食谷に挟まれた細長い台地上（田切り地形）に展開する縄文時代から中世に至る幅広い時期の複合遺跡で、標高は705m～760mを測る。

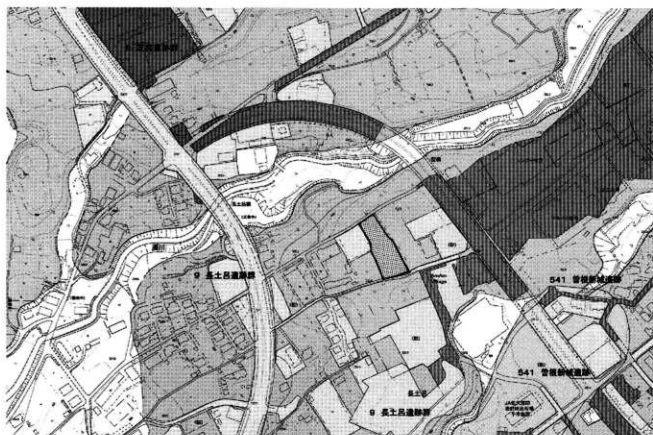
今回調査対象地となった上聖端遺跡Ⅱは、南西方向に向かって緩やかに傾斜する田切り地形の台地上に位置する。標高は733m内外を測る。

遺跡の周辺地域では、1993年3月の上信越自動車道佐久インターチェンジ開通前後から、道路建設・流通団地造成・店舗建設など開発が進み、発掘調査も数多く行われている。代表的な遺跡としては、今回調査地域の北東で流通団地造成に伴い聖原遺跡の発掘調査が平成元年～平成7年にかけて実施され、古墳時代から平安時代を中心とした住居址が900軒以上調査されている。

今回、エフビー介護サービス株式会社により本社及び福祉用具メンテナンス物流センターが建設されることとなり、平成23年7月6日から7月7日にかけて試掘調査を実施した。その結果、住居址・溝状遺構・ピットが発見されたことから、開発主体者と協議を重ね、遺跡が破壊される建物部分について、記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。なお、建物建設地域以外で発見された遺構については埋土保存とした。



長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ位置図 (1:50,000)



調査区位置図 (15,000)

第2節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	土屋 盛夫
事務局	社会教育部長	伊藤 明弘	
	社会教育部次長	藤牧 浩 (平成23年度)	
	文化財課長	吉澤 隆	
	文化財調査係長	三石 宗一	
	文化財調査係専門員	林 幸彦 (平成23年度)	須藤 隆司 小林 真寿
		羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学	
	文化財調査係	並木 節子 神津 一明 (平成23年10月～)	
		井出 泰章 (平成23年4～9月)	久保浩一郎 (平成24年度)
	嘱託職員	林 幸彦 (平成24年度)	
	調査主任	佐々木宗昭 森泉かよ子	
	調査担当者	上原 学	
	調査員	浅沼勝男 江原富子 小幡弘子 風間敏 狩野小百合 木内勇	
		小井戸秀元 小林百合子 清水澄生 滝沢三男 土屋武士	
		中嶋フクジ 比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 渡辺長子	
		渡辺学	

第3節 調査日誌

平成23年 (2011)	6月16日	土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。(93条書類)
	7月6・7日	試掘調査。(住居址・溝状遺構・ピット発見)
	7月21日～	文化財保護協議。(遺跡の破壊される建物部分の発掘調査を実施)
	9月 6日	平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
	9月12日	発掘調査開始。重機による表土剥ぎ。
	9月14日～30日	遺構検出・遺構の掘り下げ。図面作成・写真撮影等を行う。機材撤収。
	10月 3日～	報告書作成作業。

遺物 = 遺物洗浄・注記作業・接合復元作業・実測図作成・トレース・
写真撮影・図版作成。

遺構 = 図面修正・写真整理・トレース・図版作成・原稿作成。

平成24年(2012) 1月18日
2月29日

平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約の変更契約。

平成23年度発掘調査作業完了。

10月 11日
10月
12月

平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。

報告書入稿。

第211集 報告書刊行。

第4節 発見された遺構と遺物

遺 構	壁穴住居址	3軒	奈良時代	遺 物	土師器(坏・甕)
	掘立柱建物址	8棟	奈良時代		須恵器(坏・高台付坏・甕・蓋)
	溝状遺構	3条	奈良時代以前		石器(すり石・敲石・みがき石)
	ピット				鉄製品(鉄鏃・刀子)

第II章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。

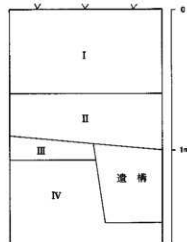
この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線と境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷(田切り)を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した上壘端遺跡Ⅱは、北部田切り地形の台地上、標高733m内外の地域に位置する。

第2節 基本層序

佐久市北部地域は、現在の浅間山が形成される以前、2,800mを超える火山であった黒煙火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在浅間山の中心を成す前掛山に成長する過程で降下火山灰及び軽石流が大きく2度に渡り堆積した。(下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2) その厚さは20mを超え、現在はこの堆積した黄褐色土ロームを表土である黒褐色土が覆っている。本調査区一帯は、資材置き場として利用されており、旧表土(耕作土)上に、約50cm内外の厚みで、埋土が施されている。



基本層序模式図

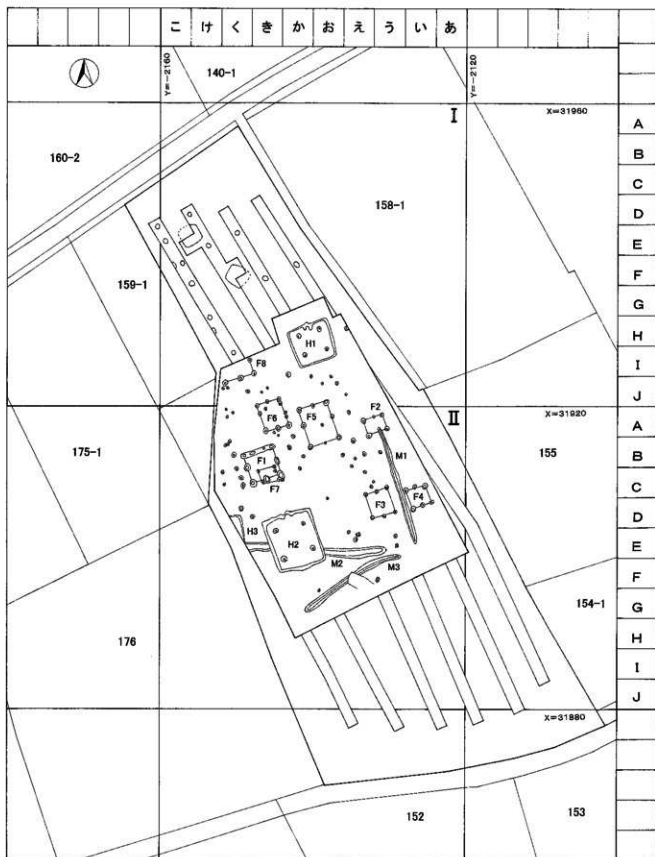
I層は層厚50cm内外を測る埋土である。

II層は層厚20cmを測る黒褐色土の耕作土で旧表土である。完全にすき取られ、存在しない地域も存在する。

III層は層厚10cm内外の旧表土とローム層の中間に位置する漸位層である。

僅かに遺構の存在が確認できる。

IV層は黄褐色ロームである。明確に遺構の確認ができる。

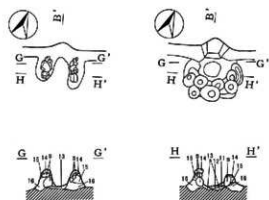
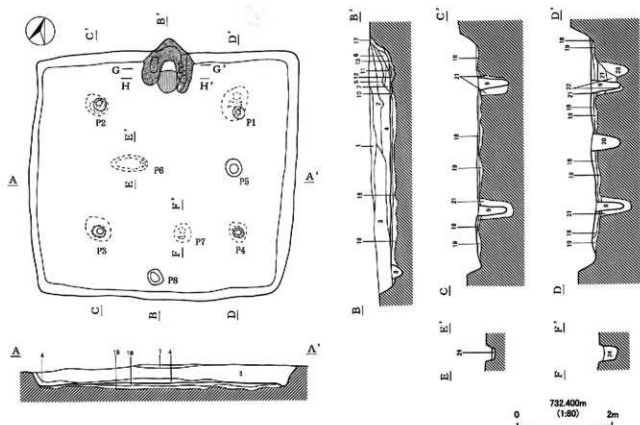


調査遺構・試掘トレンチ配置図 (1:500)

第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 (H)

H 1号住居址

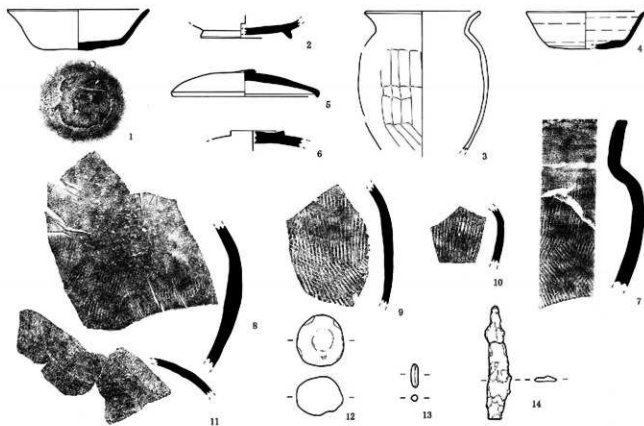


- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石含む。
- 2 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土ブロック多い、焼土、ローム、軽石含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム、軽石多い。
- 4 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土・焼土少量、ローム、軽石含む。
- 5 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土ブロック、焼土、炭化物、ローム、軽石含む。
- 6 極暗赤褐色土層 (2.5YR2/3) 焼土、灰、粘土、炭化物含む。
- 7 黒褐色土層 (5YR2/1) 焼土、灰、粘土、炭化物含む。

- 8 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石含む、しまりなし。
- 9 黒褐色土層 (10YR2/3) しまりなし、柱庇。
- 10 黒褐色土層 (5YR2/2) 焼土、ローム、軽石含む。
- 11 暗赤褐色土層 (2.5YR3/6) 焼土含む。
- 12 明赤褐色土層 (5YR5/6) 焼土層。
- 13 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 焼土、炭化物、灰含む。
- 14 明褐色土層 (7.5YR7/2) 粘土層。
- 15 にぶい褐色土層 (7.5YR6/3) 粘土層。
- 16 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム、軽石、粘土含む。
- 17 暗赤褐色土層 (2.5YR3/3) 粘土層、炭土化。
- 18 黒褐色土層 (10YR2/3) 黒色土、ローム、軽石の混合土、硬質。
- 19 暗褐色土層 (10YR3/4) 黒色土、ローム、軽石の混合土、ややしまりあり。
- 20 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多い、しまりなし。
- 21 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームやや多い、軽石含む。
- 22 褐色土層 (10YR4/4) ロームやや多い、軽石含む。
- 23 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ロームやや多い、軽石含む。
- 24 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体、しまりなし。

H 1号住居址実測図

遺構は調査区北北東のIーカーHグリッド周辺に位置する。規模は西壁4.5m、東壁4.7m、南壁4.8m、北壁5.1m、確認面から床面までの深さは40cm内外を測る。平面形態は方形である。床面はやや凹凸感のある貼り床が認められ、壁周辺部を除き、硬質である。壁周辺の床面上は軟弱であったが、明確な溝溝とおもわれる掘り込みは確認できなかった。ピットは床面上で6個、掘方で2個が認められた。主柱穴はP1～P4と思われる、床面上では、直径20cm内外の黒色部分のみ軟質で、周辺部の柱穴掘方部分上部には貼り床が存在した。軟弱な黒色部分が柱痕と考えられる。ピットの深さはいずれも70cm内外を測り、しっかりとした掘り込みを持つ。またP8は入口に関係するピットである可能性が窺える。カマドは北壁の中央に構築され、石材と白色粘土を多用した両袖が比較的良好な状態で残存していた。カマド中央の火床部分には、直径50cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・蓋・甕、すり石・みがき石、刀子が出土した。須恵器底部全面にヘラケズリを施す成型方法及び形状、土師器武蔵瓦頸部「く」の字形態から、本住居址は7世紀、奈良時代としたい。

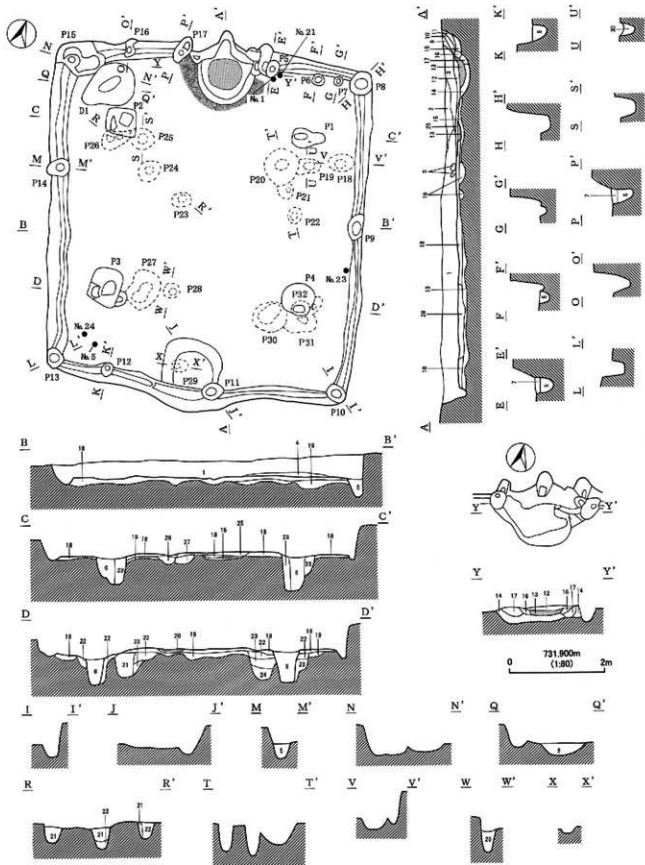


H1号住居址遺物実測図

数量	品名	径長	口径φ	高さφ	底径φ	備 考・注 記	発出層・層位	備 考
1	須恵器	坏	10	8.3	6.2	外縁のクノケテ、底部へラケズリ。	50	内径 2775/4 黒褐色
2	須恵器	高台付坏	-	28.4	-	裏面へラケズリ現象を認めず。	兼 50	外径 2775/4 黒褐色
3	土師器	小形甕	〔12.2〕	-	〔14.8〕	口縁、数箇所に上縁キナシ。裏面外縁下部へラケズリ。内裏面へラケズリ。	20	外径 2775/2 黒褐色
4	須恵器	坏	〔24.7〕	7.4	4	内外裏面クノケテ、底部へラケズリ。	25	内径 2775/2 黒褐色
5	須恵器	盖	径 12.2	-	径 3.2	外縁面へラケズリ、中央欠損。	50	内径 2775/2 黒褐色
6	須恵器	盖	径 10.5	-	-	裏面つまみ。	つまみ 50	外径 2775/2 黒褐色
7	須恵器	甕	-	-	-	口縁の外縁キナシ。外縁中下部キナシ。内裏面上縁キナシ下部へラケズリ。	二層一須恵器内	外径 2775/2 黒褐色
8	須恵器	甕	-	-	-	外縁面キナシ。内縁面へラケズリ。	二層一須恵器内	外径 2775/1 黒褐色
9	須恵器	甕	-	-	-	外縁面キナシ。内縁面へラケズリ。	須恵器内	外径 2775/1 黒褐色
10	須恵器	甕	-	-	-	外縁面キナシ。内縁面内縁キナシ。	須恵器内	外径 2775/1 黒褐色
11	須恵器	甕	-	-	-	口径キナシ。外縁面内縁キナシ。	須恵器内	外径 2775/1 黒褐色
12	すり石	丸型 30g	径 5.4	径 4.2	厚 3.1	石の表面に縦筋、横筋。		
13	みがき石	楕円形 2g	径 2.5	径 2.7	厚 0.7	表面に縦筋あり。		
14	須恵器瓦片	瓦片 20g	径 3.2	径 2.4	厚 0.6	縦筋あり。		

H1号住居址遺物観察表

H 2 号住居址

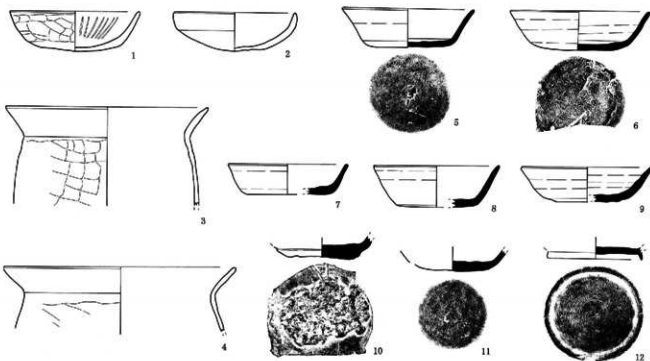


H 2 号住居址平面图

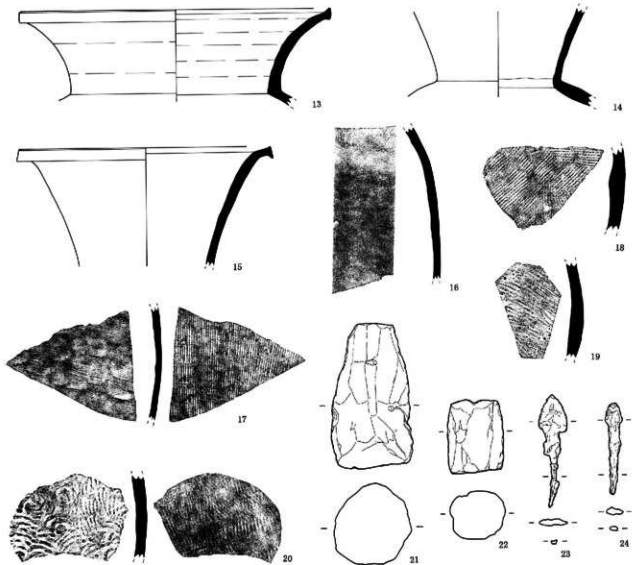
- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石、炭化物含む。
- 2 にぶい赤褐色土層(2.5YR4/3)粘土、焼土、炭化物多い。
- 3 暗褐色土層(5YR2/3)粘土、焼土、炭化物含む。
- 4 黒褐色土層(10YR2/2)ローム、軽石、炭化物含む。
- 5 黒褐色土層(10YR3/2)ローム多い、しまりなし。
- 6 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、粘土粒、軽石含む。しまりなし。
- 7 暗赤灰色土層(2.5YR3/1)粘土、ローム、軽石含む。
- 8 黒褐色土層(5YR2/1)ローム、軽石含む。
- 9 明赤褐色土層(2.5YR5/6)焼土層。
- 10 暗赤褐色土層(2.5YR3/3)焼土層。粘土粒、灰含む。
- 11 赤黒色土層(2.5YR2/1)焼土、粘土粒含む。
- 12 にぶい赤褐色土層(2.5YR4/4)焼土層。粘土粒多い。
- 13 赤褐色土層(2.5YR4/6)焼土層。(火床)
- 14 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/4)焼土、灰多い、しまりなし。
- 15 黒褐色土層(5YR2/2)焼土、炭化物、灰含む。ややしまりあり。
- 16 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)焼土、灰、粘土含む。しまりなし。
- 17 黒褐色土層(5YR2/2)焼土、灰、粘土含む。しまりなし。
- 18 黒褐色土層(10YR2/3)ロームブロック、軽石含む。硬質。
- 19 褐色土層(7.5YR4/4)ローム多い、軽石、暗褐色土含む。
- 20 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)粘土層。
- 21 黒褐色土層(7.5YR3/2)ローム、軽石、炭化物含む。
- 22 褐色土層(7.5YR4/3)ローム、軽石、炭化物含む。
- 23 灰褐色土層(7.5YR5/2)ローム主体。
- 24 暗褐色土層(7.5YR3/4)ローム、軽石含む。
- 25 にぶい赤褐色土層(2.5YR4/3)粘土層。硬質。
- 26 灰褐色土層(5YR5/2)ローム、軽石、粘土含む。
- 27 灰褐色土層(5YR4/2)ローム、軽石、粘土含む。
- 28 暗褐色土層(7.5YR2/3)ロームブロック、炭化物、焼土含む。
- 29 暗褐色土層(7.5YR3/3)ロームブロック、軽石含む。しまりなし。
- 30 灰褐色土層(5YR4/2)ローム主体。黒色土、軽石含む。

遺構は調査区の西側、Ⅱ-き-Eグリッド周辺に位置し、部分的に擾乱の影響を受けて床面が削られている箇所も認められた。規模は西壁6.8m、東壁6.9m、北壁6.4m、南壁6.4m、確認面から床面までの深さは35~65cmを測るやや大型の住居址で、平面形態は方形である。床面は全体に貼り床が施され硬質である。壁周辺には幅20cm、深さ15cm内外の明確な溝が存在する。ピットは床面上で大小18個確認できた。主柱穴はP1~P4と思われる。いずれのピットも直径60cm内外の範囲が軟質であった。また、住居址コーナー、カマド周辺など壁溝内に柱穴と思われるピットが多数存在した。北西コーナーに不整形の落ち込みが認められたが、貯蔵穴と呼べるような状態の掘り込みではなかった。カマドは北壁中央に構築されているが、火床以外の構築物は完全に破壊された状態であった。カマドから住居内に向かって、何かに押し出されたかのように粘土の堆積が散散していることから、住居が堆積物に覆われる段階で、北から南方向に向かって大きな力が働いたようである。火床には直径70cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。火床の規模から住居址同様、大型のカマドであった様子が窺える。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕・蓋、鉄鎌が出土した。須恵器底部全面にヘラケズリを施す成型方法及び形状、薄手の土師器甕頸部「く」の字状形態から7世紀、奈良時代とした。



Ⅱ2号住居址遺物実測図(1)



II 2 号住居址遺物実測図 (2)

番号	品名	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文書	出土地・B/L	備考
1	土器鉢	鉢	133	84	43	片断の基部、基部へテ張り、内縁部を削ぎ取状跡文。	79	外縁 2.17x5.4 4.1.2.1 褐色
2	土器鉢	鉢	13	高底	4.2	口縁部外縁部をテ張り、内縁部へテ張り、内縁部テ張り・不整テ張り。	80	外縁 2.57x3.6 褐色
3	土器器	器	[21]	-	-	口縁部テ張り、内縁部へテ張り、内縁部へテ張り。	1.100-1.000 磁器片	外縁 2.52x3.9 褐色褐色
4	土器器	器	[24.2]	-	-	口縁部テ張り、内縁部へテ張り、内縁部へテ張り。	1.200-1.000 磁器片	外縁 2.53x3.6 褐色
5	土器器	器	12.0	8	4.1	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	83	外縁 2.5x3.1 褐色
6	土器器	器	14.5	7.9	4.3	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	87	内縁部 2.5x2.1 褐色
7	土器器	器	[12.4]	[8.2]	3.2	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	20	外縁 2.5x3.1 褐色
8	土器器	器	[13.2]	[8.2]	4.3	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	25	外縁 2.5x3.1 褐色
9	土器器	器	[13.6]	[8]	3.7	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	29	外縁 2.5x3.1 褐色
10	土器器	器	-	7.2	-	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り、基部へテ張り。	2.100-1.000 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
11	土器器	器	-	7.1	-	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	2.100 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
12	土器器	高台付鉢	-	9.8	-	基部部テ張りテ張りテ張り高台部テ張り。	2.100 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
13	土器器	器	[20.4]	-	-	内縁部テ張りテ張り、基部部テ張り。	1.100 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
14	土器器	器	-	-	-	内縁部テ張りテ張り、基部部テ張り。	2.100 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
15	土器器	器	[27.2]	-	-	内縁部テ張りテ張り。	1.100 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
16	土器器	器	-	-	-	内縁部テ張りテ張り。	2.100 磁器片	外縁 2.5x3.1 褐色
17	石器	石器	-	-	-	片断の基部、基部へテ張り、内縁部を削ぎ取状跡文。	79	外縁 2.17x5.4 4.1.2.1 褐色
18	石器	石器	-	-	-	口縁部外縁部をテ張り、内縁部へテ張り、内縁部テ張り・不整テ張り。	80	外縁 2.57x3.6 褐色
19	石器	石器	-	-	-	口縁部テ張り、内縁部へテ張り、内縁部へテ張り。	1.100-1.000 磁器片	外縁 2.52x3.9 褐色褐色
20	石器	石器	-	-	-	口縁部テ張り、内縁部へテ張り、内縁部へテ張り。	1.200-1.000 磁器片	外縁 2.53x3.6 褐色
21	石器	石器	-	-	-	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	83	外縁 2.5x3.1 褐色
22	石器	石器	-	-	-	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	87	内縁部 2.5x2.1 褐色
23	石器	石器	-	-	-	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	20	外縁 2.5x3.1 褐色
24	石器	石器	-	-	-	内縁部テ張りテ張り、基部へテ張り。	25	外縁 2.5x3.1 褐色

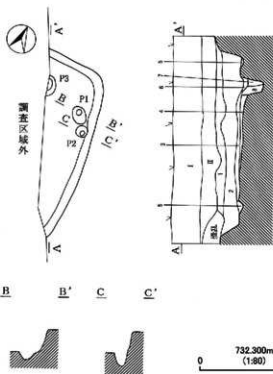
H 2 号住居址遺物観察表 (1)

番号	遺物	品名	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 献	発掘中・部位	備考
18	須恵器	甕	-	-	-	外縁平行円蓋、内縁ナシ。	敷居部分	外縁22×41 褐色色
19	須恵器	甕	-	-	-	外縁平行円蓋、内縁ナシ。	敷居部分	外縁23×41 褐色色
20	須恵器	甕	-	-	-	外縁平行円蓋、内縁口の厚み、内縁口縁斜縁部。	敷居部分	外縁23×41 褐色色
21	須恵器土層	直径105φ	高さ10	底径64	先縁径11	須眉、先縁部、底縁部縁に波状。		
22	須恵器土層?	直径109φ	高さ5.1	底径54	先縁径5.1	須眉、先縁部、底縁部縁に波状。		
23	須恵器	直径19φ	高さ12.3	底径11	先縁径	須眉部。		
24	須恵器	直径17φ	高さ10	底径18	先縁径	須眉部。		

H 2号住居址遺物観察表 (2)

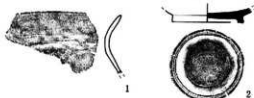
H 3号住居址

遺構は調査区西端、Ⅱ-く-Eグリッドに位置し、西側の大半は調査区域外となる。調査範囲は北東コーナー付近の一部である。調査規模は、北壁1.1m、東壁3.2m、確認面から床面までの深さは40cm内外を測る。床面は壁際を除き貼り床が施され、硬質である。ピットは床面上で3個確認でき、P3が主柱穴の一つと考えられる。壁溝、カマドは確認できなかった。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕が出土した。土師器甕の頸部が「コ」の字になる前段階であることから7世紀、奈良時代としたい。



- I 灰褐色土(5YR6/2)埋土。(ローム土)
- II 黒褐色土(10YR2/2)ローム少量、軽石含む。田土。

- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石、炭化物含む。
- 2 黒褐色土層(10YR2/2)ローム、軽石、炭化物含む。
- 3 褐色土層(10YR4/4)ローム、黒色土の混合土。硬質。(床)
- 4 褐色土層(10YR4/6)ローム、黒色土の混合土。硬質。(床)
- 5 暗褐色土層(10YR3/4)ローム、軽石含む。しまりなし。
- 6 灰黄褐色土層(10YR6/2)白色ローム。しまりなし。
- 7 黒褐色土層(10YR3/2)ロームや多い。しまりなし。
- 8 灰黄褐色土層(10YR6/2)白色ローム。しまりなし。



H 3号住居址遺構・遺物実測図

番号	遺物	品名	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文 献	発掘中・部位	備考
1	土師器	甕	-	-	-	口縁縁ナシ。	口縁部分	外周23×35.2 褐色黒色
2	須恵器	高台付坏	-	7.4	GD	縁部縁部及び高台部縁に波状。物部伝承「こ」の字の先縁部縁に波状。	高台・縁部(2)	外周24×40 褐色色

H 3号住居址遺物観察表

第2節 掘立柱建物址 (F)

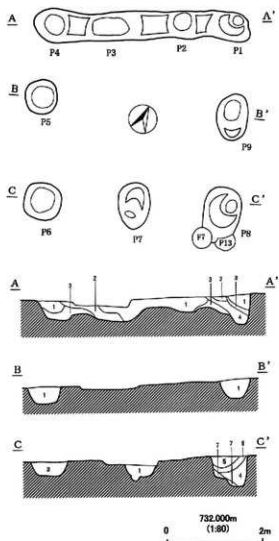
F 1号掘立柱建物址

遺構はⅡ-き-Cグリッド周辺に位置し、F7を切る。確認できたピットは、西側2間、東側2間、北側は溝持ちで3間、南側2間の9個が認められた。全体の規模は、東西4.0m、南北3.9m、ピットの形状は円形または楕円形で、径0.6~1.2m、深さ30~65cmを測る。柱に囲まれた内側にピットが認められなかったことから側柱の掘立柱建物址と考えられる。

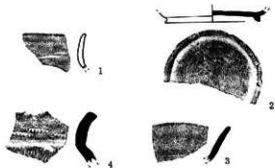
F 2号掘立柱建物址

遺構はⅡ-う-Aグリッド周辺に位置する。確認できたピットは5個で、北側2間、南及び東西は1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西2.6m、南北2.0mである。ピットの形状は、北側中央部のピットがやや方形である他は円形で、径28~60cm、深さ20~40cmを測る。

F 1号掘立柱建物址

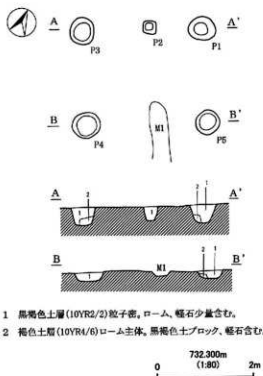


- 1 黒褐色土層(10YR2/2)軽石、ローム含む。粒子密。
- 2 褐色土層(10YR4/6)ロームブロック主体。
- 3 暗褐色土層(10YR3/4)ローム、軽石やや多い。
- 4 黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石少量含む。
- 5 暗褐色土層(10YR3/4)ローム、軽石多い。
- 6 褐色土層(10YR4/6)ローム主体。黒褐色土、軽石含む。
- 7 黄褐色土層(10YR5/6)ローム主体。黒褐色土含む。



F 1号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

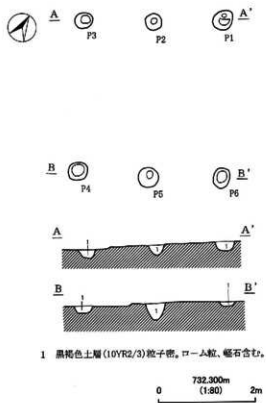
F 2号掘立柱建物址



- 1 黒褐色土層(10YR2/2)粒子密、ローム、軽石少量含む。
- 2 褐色土層(10YR4/6)ローム主体。黒褐色土ブロック、軽石含む。

F 2号掘立柱建物址実測図

F 3号掘立柱建物址



- 1 黒褐色土層(10YR2/3)粒子密。ローム粒、軽石含む。

F 3号掘立柱建物址実測図

F 3号掘立柱建物址

遺構はⅡ-ウ-Dグリッド周辺に位置する。確認できたピットは6個で、東西2間、南北1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西3.0m、南北3.4mである。ピットの形状は円形で、径35~42cm、深さ10~35cmを測る。

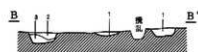
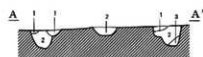
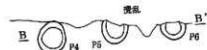
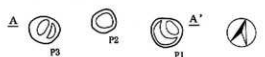
F 4号掘立柱建物址

遺構はⅡ-い-Cグリッド周辺に位置し一部攪乱に破壊される。確認できたピットは6個で、東西2間、南北1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西2.6m、南北2.6mである。ピットの形状は円形で、径50~70cm、深さ10~45cmを測る。

F 5号掘立柱建物址

遺構はⅡ-お-Aグリッド周辺に位置する。確認できたピットは8個で、東西2間、南北2間の側柱と考えられる。全体の規模は東西3.8m、南北5.0mである。ピットの形状はP2・6が方形に近い他は、ほぼ円形であり、ピットの規模は、径25~75cm、深さ10~40cmを測る。

F 4号掘立柱建物址



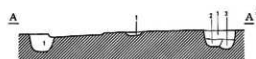
- 1 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、黒褐色土、軽石含む。
- 2 黒褐色土層(10YR2/2)粒子密、ローム、軽石少量含む。
- 3 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。

0 732.400m (1:80) 2m



F 4号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

F 5号掘立柱建物址



- 1 黒褐色土層(10YR2/2)粒子密、ローム、軽石含む。
- 2 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。
- 3 に近い黄褐色土層(10YR4/3)ローム主体、暗褐色土、軽石含む。

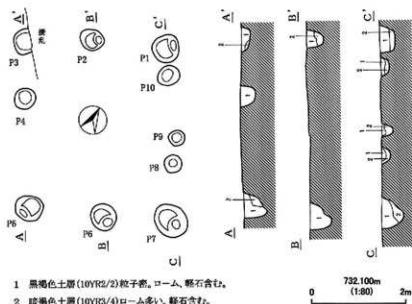
0 732.200m (1:80) 2m

F 5号掘立柱建物址実測図

F 6号掘立柱建物址

遺構はⅡ-き-Aグリッド周辺に位置する。確認できたピットは10個であるが、P4、8、9、10は伴うか断定できない。規模は東西3.2m、南北3.8mである。ピットの形状は円形で、規模は小ピットも含めると、径35~75cm、深さ20~50cmを測る。

F 6号掘立柱建物址



- 1 黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石含む。
- 2 暗褐色土層(10YR3/4)ローム多い。軽石含む。

F 6号掘立柱建物址実測図

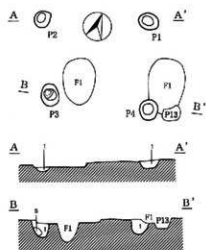
F 7号掘立柱建物址

遺構はⅡ-き-Cグリッド周辺に位置し、F1に切られる。確認できたピットは4個で、1×1間の銅柱と考えられる。規模は南北1.8m、東西2.1mである。ピットの形状は円形で、径25cm内外、深さ12~32cmを測る。

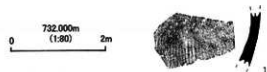
F 8号掘立柱建物址

遺構はⅠ-く-Jグリッド周辺に位置する。確認できたピットは南北1間、東西2間の4個である。確認状況から、遺構は北に広がると考えられる。調査規模は南北1.8m、東西4.0mである。ピットの形状は、ほぼ円形で直径50~68cm、深さ16~32cmを測る。

F 7号掘立柱建物址

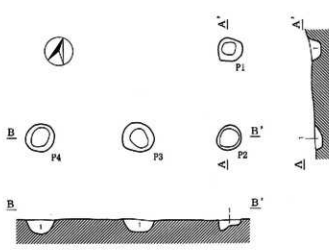


- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石少量含む。



F 7号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

F 8号掘立柱建物址



- 1 黒褐色土(10YR2/3)ローム、軽石含む。

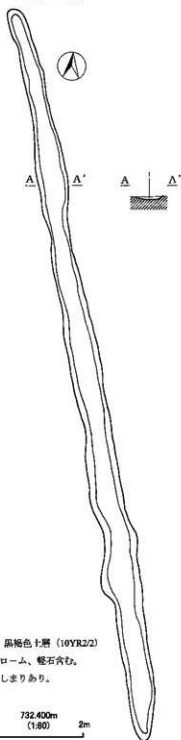
F 8号掘立柱建物址実測図

番号	位置	形状	径(m)	深さ(m)	用途	調査・調査	調査・調査
F1	土間層	壁	-	-	-	口縁部ナシ。	調査済
F2	遺物層	集合体等	-	15	-	北西縁部へくぼり縁部集合体付着。	調査済 内径 2378/4 に近い赤褐色
F3	遺物層	円	-	-	-	口縁部ナシ。	調査済 内径 2727/17、ア層色
F4	遺物層	壁	-	-	-	口縁部ナシ。口縁部縁部ナシ。	調査済 内径 2727/17 褐色
F4	遺物層	壁?	[34]	-	-	口縁部ナシ。底形へくぼり。	調査済 内径 2727/17 に近い赤褐色
F5	遺物層	壁	-	-	-	内径半円形。内径ナシ。	調査済 内径 2727/17 赤褐色
F6	遺物層	壁	-	-	-	内径半円形。内径ナシ。	調査済 内径 2727/17 赤褐色

掘立柱建物址遺物観察表

第3節 溝状遺構 (M)

M1号溝状遺構

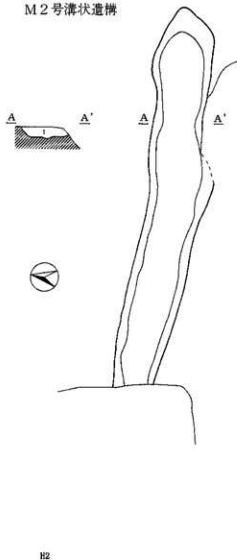


1 黒褐色土層 (10YR2/2)
 ローム、軽石含む。
 しまりあり。

M1号溝状遺構実測図



M2号溝状遺構



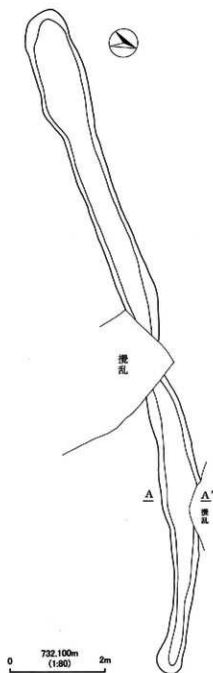
H2

1 黒褐色土層 (10YR2/2)
 ローム、軽石含む。

調査区域外

M2号溝状遺構 遺構・遺物実測図

M3号溝状遺構



M1号溝状遺構

遺構はⅡ-う-EからⅡ-い-Eグリッドにかけて存在し、北から南に向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ15.6m、幅0.35~0.8m、深さは10~30cmを測る。

M2号溝状遺構

遺構はⅡ-う-EからⅡ-き-Eグリッドにかけて存在し、東から西に向かって緩やかに傾斜する。西側は調査区域外に続く。規模は調査規模で、長さ18m、幅0.9~1.4m、深さ30cmを測る。時期は、奈良時代のH2号住居址に切られることから、奈良時代以前の溝状遺構と考えられる。

M3号溝状遺構

遺構はⅡ-う-EからⅡ-か-Gグリッドにかけて存在し、東から西に向かって緩やかに傾斜する。遺構の一部は近年の擾乱によって破壊されている。規模は長さ14.5m、幅0.4~1.1m、深さ10~30cmを測る。本遺構は、M2が、Ⅱ-う-Eグリッド付近で分岐したものであることから、時期はM2と同時期の奈良時代以前と考えられる。



1 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒、軽石含む。

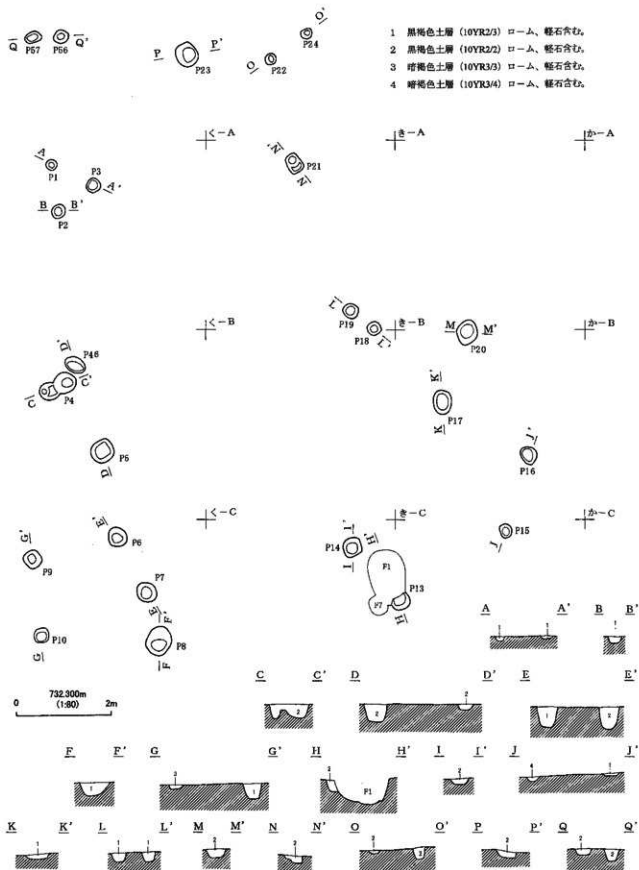


M3号溝状遺構 遺構・遺物実測図

番号	材料	形状	寸法mm	重量g	容積cc	調査・分析	備考
S21	土砂層	塊	-	-	-	1層厚約5cm、12層厚約10cm、NO3と同一層位の土層あり。	土砂層片 外量 10YR2/1 褐色
S22	土砂層	塊	-	-	-	長約10cm、内厚5cm、NO3と同一層位の土層あり。	土砂層片 外量 10YR2/1 褐色
S23	土砂層	塊	-	-	-	外周縁が1層厚約10cm、内周縁約5cm。	土砂層片 外量 10YR2/1 褐色
S24	土砂層	塊	-	-	-	1層厚約5cm。	土砂層片 外量 10YR2/1 褐色
S25	土砂層	塊	-	-	-	外周縁約10cm、内厚約5cm。	土砂層片 外量 10YR2/2 褐色

溝状遺構遺物観察表

第4節 ビット (P)



ビット実測図 (1)

き-H

か-II

お-H

え-H



き-I

か-I

お-I

え-I



き-A

か-A

お-A

え-A



き-B

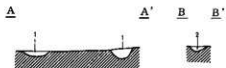
か-B



732,300m
(1:30) 2m

- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム、軽石含む,
- 2 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石含む,
- 3 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石含む,
- 4 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム、軽石含む,

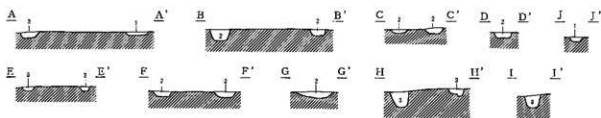
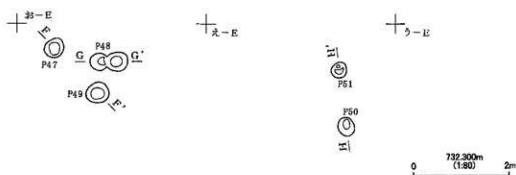
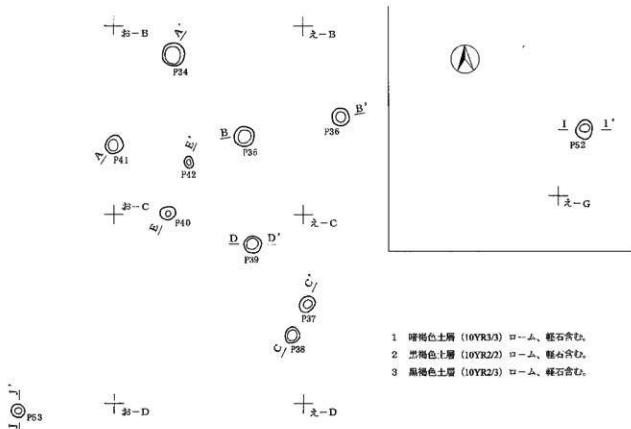
ビット実測図 (2)



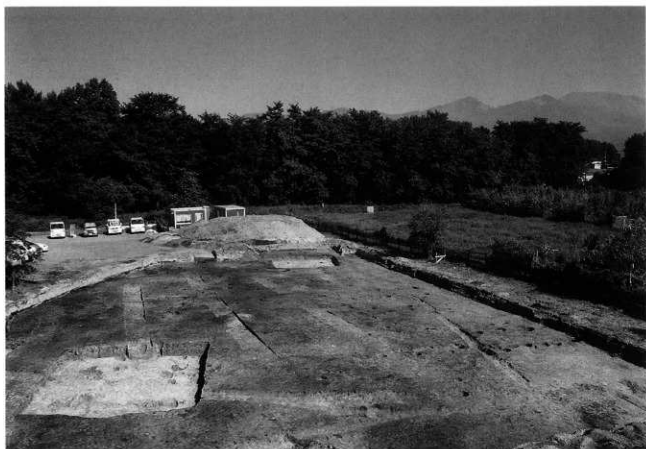
0 732.300m
(1:50) 2m

- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、軽石含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、軽石含む。

ピット実測図 (3)



ピット実測図(4)



長上呂遺跡群 上型端遺跡Ⅱ調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



調査風景（南から）



調査区近景（南から）



調査風景（北から）



H1号住居址全景（南から）



H1号住居址カマド（南から）



H1号住居址カマド石材使用状況



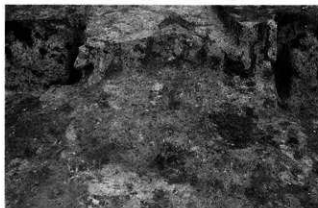
H1号住居址カマド掘方（南から）



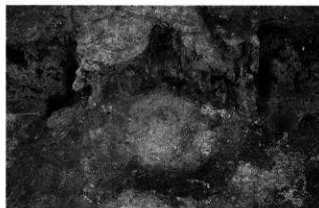
H1号住居址掘方（南から）



H 2号住居址全景 (南から)



H 2号住居址カマド (南から)



H 2号住居址カマド火床 (南から)



H 2号住居址カマド掘方 (南から)



H 2号住居址掘方 (東から)



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址支脚石出土状況



H 3号住居址全景 (東から)



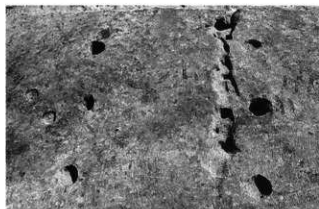
H 3号住居址掘方 (東から)



F 1号掘立柱建物址 (南から)



F 2号掘立柱建物址 (南から)



F 3号掘立柱建物址 (西から)



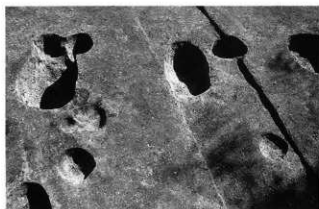
F 4号掘立柱建物址 (西から)



F 5号掘立柱建物址 (西から)



F 6号掘立柱建物址 (南から)



F 7号掘立柱建物址 (北から)



F 8号掘立柱建物址 (西から)



M1号溝状遺構 (南から)



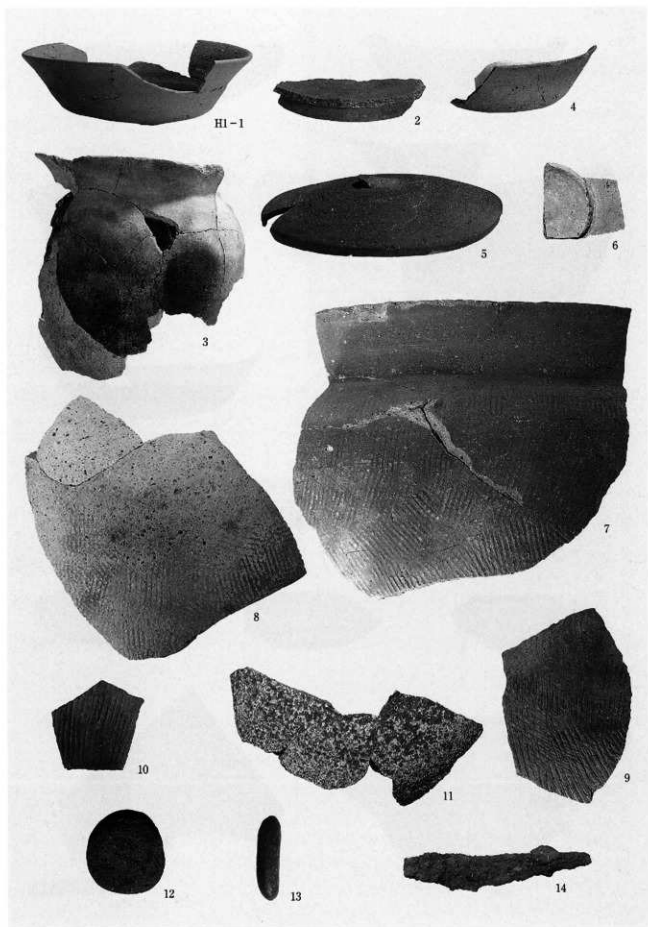
M2・3号溝状遺構 (東から)



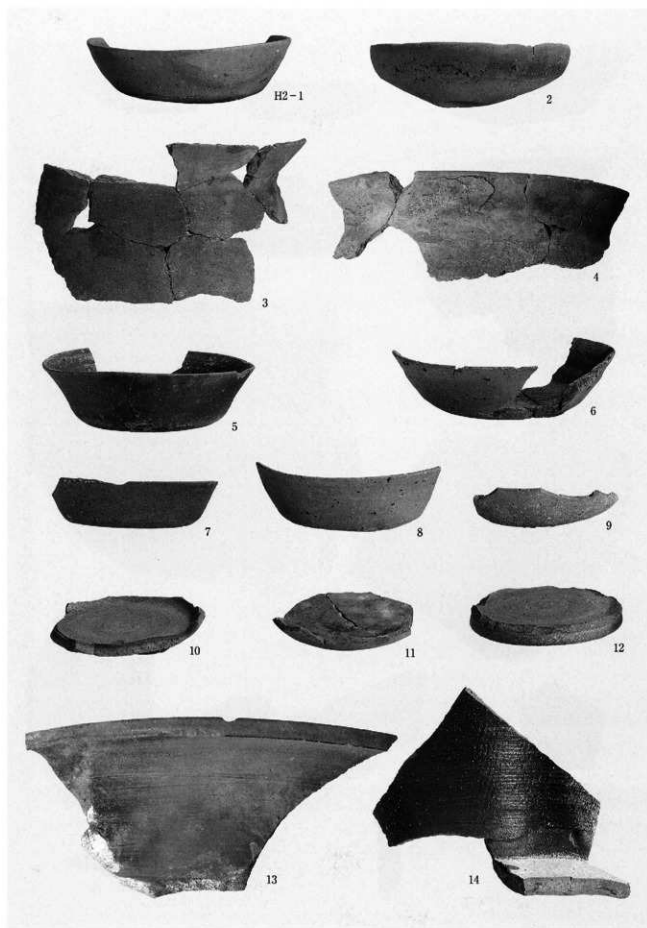
表土除去作業風景



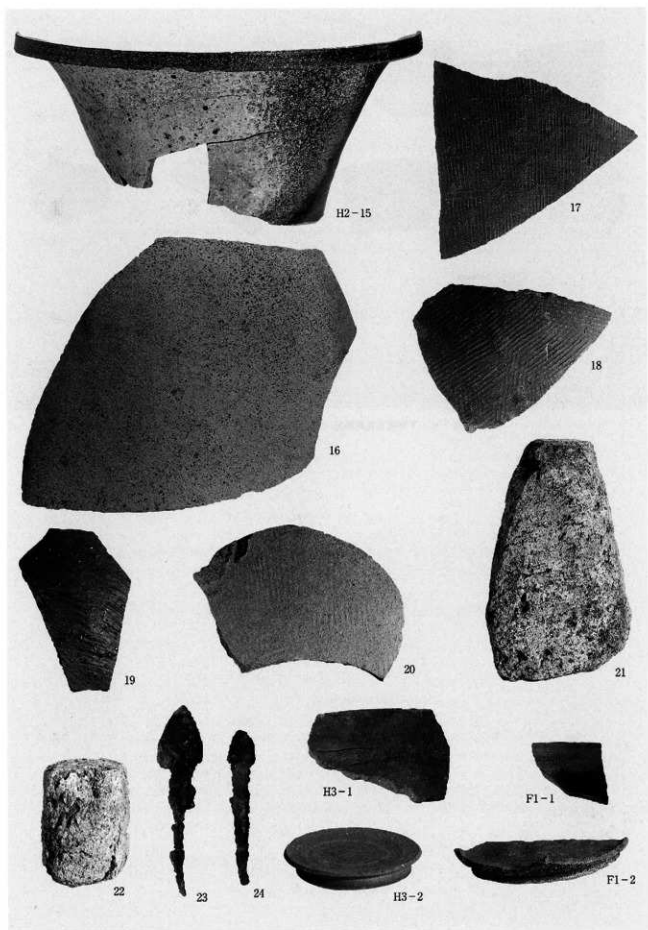
基準杭設定作業風景



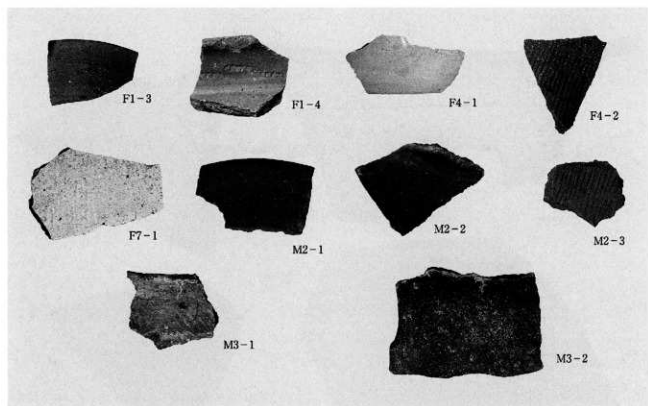
H1号住居址出土遺物 (No13のみ縮尺が異なる)



H 2 号住居址出土遺物



H2·3号住居址、F1号掘立柱建物址出土遺物



F 1 · 4 · 7 号獨立柱建物址、M 2 · 3 号筒状遺構出土遺物

ふりがな	ながとろいせきぐん かみひじりばたいせきに							
書名	長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第211集							
編者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀 5953 ℡ 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成 24 年 12 月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ながとろいせきぐんかみひじりばたいせきに	さくしながとろ	20217	9	36° 17' 15"	138° 28' 35"	20110912 ～ 20110930	869	本社及び福祉用具メンテナンス物 流センター 建設
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ	佐久市 長上呂 159-1、159- 2、159-3							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ	集落	奈良時代	駅穴住居址 3、掘立柱 建物址 8、溝状遺構 3、 ピット		土師器、須恵器、石製品、 鉄製品		奈良時代の住居址等を 中心とした集落跡が発 見された。	
要約	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に延びる細長い田切り地形の台地上に展開する遺跡である。今回の調査対象地からは、奈良時代の住居址 3 軒及び奈良時代の遺物を伴う掘立柱建物址 8 棟が発見され、ほぼ単独の時代構成であった。しかし、同一台地上のほぼ隣接する北東には古墳時代から平安時代の住居址 900 軒が調査された聖原遺跡が所在していることから、上聖端遺跡Ⅱ周辺地域では、古墳時代から平安時代にかけて大規模な集落が継続して形成されていたことが想定される。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第211集

長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ

2012年12月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953

℡ 0267-68-7321

印刷所 臼田活版株式会社

〒384-0301 長野県佐久市臼田 2016

℡ 0267-82-2109

